

札幌での「世界祈禱日2026」への誘い

「世界祈禱日」とは「世界祈禱日」は1887年、多様なキリスト教の伝統を共有するアメリカの女性たちが、移住者、抑圧されている人たちのために始めた運動です。その後、地球規模の視野をもって、和解と平和を求める祈りによる世界的な運動に発展しました。

キリスト教のさまざまな教派が、協働して開催すること、また現在でも女性が運営に重要な役割を果たしていることが大きな特徴です。伝統的には3月最初の金曜日に開催されてきましたが、他の日程でもかまわないとされていますので、札幌は2026年は4月25日にすることに決めました。

世界のさまざまな国をとりあげ、その国のクリスチャンのために祈る「世界祈禱日」では、毎年、世界のどこか1国をとりあげ、その国の女性たちが礼拝の式文を作成します。これを式文作成国と言います。2026年の式文作成国は、ナイジェリアです。

「世界祈禱日」での献金は、「世界祈禱日」国際委員会(WDP)を通じて、式文作成国や、国内外の女性たちのさまざまな活動支援に使われます。

ナイジェリアの紹介

西アフリカの国です。北部は、サハラ砂漠の南(サヘル地域)で、乾燥し、気候変動による干ばつの被害が多い地域です。南部はギニア湾に面してモンスーンの影響を受け、熱帯雨林気候から明瞭な乾季のあるサバナ気候です。アフリカ最大の人口(2億1140万人)、経済力を持ち、「アフリカの巨人」とも呼ばれます。



多民族国家：500以上の民族(ハウサ、イボ、ヨルバが3大エスニック・グループ)

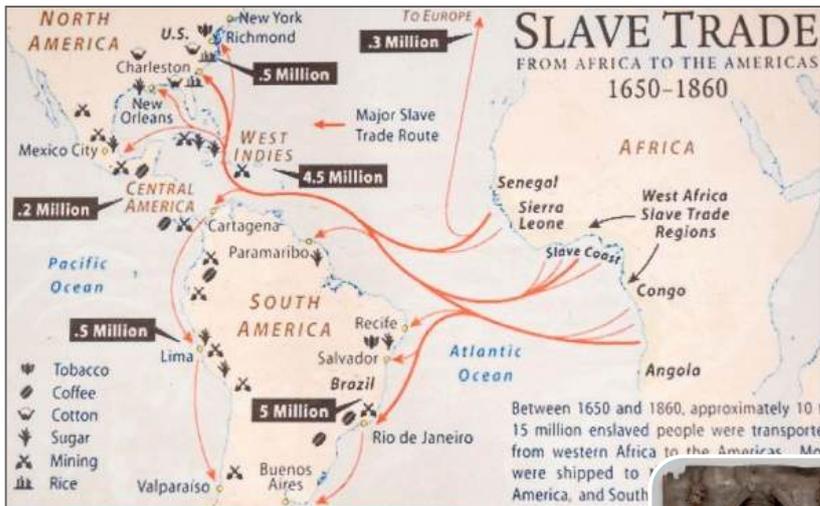
長い歴史をもち、19世紀以降、英国の植民地、1960年に独立。

公用語は英語。

●式文で語られる3人の女性の物語です

ベアトリスの物語●部族間の対立による夫の殺害、それを超える女性同士の信仰・連帯

宗教対立：北部に多いイスラム教(スンナ派)・南部に多いキリスト教・伝統的宗教



2020年には、世界で最も信教の自由が侵害されている国の中で、「特に懸念のある国」に分類されました。国際キリスト教人権監視機構の報告では、「ナイジェリアでは2000年以降、5〜7万人のキリスト教徒が殺害されており、キリスト教徒にとって地球上で最も過酷な場所の一つ」とされています。

ジャトの物語●イスラムとの対立の中で起きた子どもの誘拐、それを乗り越える祈り

経済発展と格差の増大：豊かな石油・天然ガス資源、高い失業率、貧困

ブレッシングの物語●大都市ラゴスでの貧困、絶望、それを乗り越える信仰、回復力

17〜19世紀の奴隷貿易では多くのアフリカ人が連れ去られました。ベニン・ブロンズ(右)も略奪されたアート



女子リーダーシッププログラムで



14世紀ノク文化のテラコッタ

教会に集う女性たち



常食のウガリを調理する女性



今回の式文作成チーム



*式文冊子 200円は、事前にできるだけ所属教会でとりまとめ、あるいは個人で NCC 事務所宛てに FAX(03-5579-2307)で、部数、送付先を明記して申し込みいただくか、右の QR コードからご購入ください。(当日、受付で 20 部程度を用意します)

